

(2002年5月29日理事会決議)

## 2001(平成13)年度事業報告書

### 1.保護事業

#### (1) 21世紀プロジェクト・沖縄地域の自然保護(自然保護助成基金助成事業)

自然と共生する持続可能な地域社会づくりを長期的な目標として、沖縄本島北部のやんばる地域等の沖縄の生物多様性を保全するため以下の活動を実施。

1) 沖縄島北部やんばる問題 / 米軍より返還予定の国有林(照葉樹自然林)への保護林指定を目標に、林野庁による検討委員会へ委員として参画するとともに、北部演習場のヘリパッド計画に関する防衛施設庁の調査結果をモニタリング。

2) 沖縄のジュゴン、ヤンバルクイナ、ノグチゲラの保全のため共同声明を日米両政府に提出(7月)。

3) 辺野古ジュゴン保護問題 / 普天間基地移転予定の辺野古沖藻場・サンゴ礁の現地調査を実施し、日米両政府・国際団体へジュゴン保護の必要性をアピール(8月にワシントン訪問、12月にIUCN他国際団体からのメッセージ集約、2月にUNEPのジュゴン報告書発表)。

4) 沖縄島中城湾・泡瀬干潟問題 / 現地調査と意見書提出を準備(2002年4月に提出)。

5) 石垣島白保サンゴ礁問題 / 新石垣空港建設計画に関して情報収集。

#### (2) 特定テーマプロジェクト

##### 1) 河川・河口域プロジェクト

新河川法への対応 / 河川整備計画の一環として国土交通省近畿地方整備局による淀川水系流域委員会に参画。

川辺川ダム問題 / アユ・付着藻類等河川環境に関する調査を継続し、中間報告書を取りまとめ、12月に開かれた川辺川ダム県民討論会等において意見発表(自然保護助成基金助成事業)。

清津川ダムや葛根田川床固工等、希少猛禽類の生息とダム建設等が問題となる地域において、現地調査やシンポジウムに出席して意見提出。一方、新潟県佐

梨川総合開発計画(湯ノ谷揚水発電)問題では、希少猛禽類の保護等を理由に計画が中止された。

長良川河口堰問題/堰の運用のあり方に関して国土交通省との話し合いを継続。

利根川河口堰問題/国土交通省、水資源開発公団による総合評価報告書に対しコメント(12月)。

千歳川放水路問題/石狩川・千歳川流域における治水対策に関して意見提出。

## 2) 海辺・干潟プロジェクト

東京湾三番瀬問題/埋立中止決定後の合意形成のあり方に関し、意見を表明するとともに、千葉県が主催する三番瀬再生計画検討会議に委員として参画。

・諫早湾干拓事業問題/底泥の堆積、貧酸素水塊の発生、流入河川の負荷などに関する緊急調査を実施し、水門の開放と諫早干潟の再生を提言(自然保護助成基金助成事業及びWWF

日興グリーンインベスターズ基金助成事業)。

## 3) 里地・里やまプロジェクト

新生物多様性国家戦略策定への対応/平成12年度~平成13年度の里地・里やま全国調査の結果を活用して、里地・里やまの保全の重要性を盛り込むよう意見書を提出(3月)。

愛知県瀬戸市海上の森問題/2005年日本国際博覧会協会の海上地区会場計画モニタリング会議に委員として参画し、シデコブシなどがみられる谷部の会場計画の変更を要請。

山梨県明野村産業廃棄物最終処分場問題/地元団体のオオタカ調査に協力し、事業者である山梨県知事に里やま自然と猛禽類の生息環境の保全を求める意見書を提出(10月)。

東京都周辺の湧水問題/埼玉県和光市白子、新座市妙音沢、東京都東久留米市落合川、港区がま池などの湧水に関して、自治体委託の調査を実施するなど、保全の必要性をアピール。

## 4) 森林・野生動物プロジェクト

国有林の緑のコリドー(回廊)問題/緑のコリドーの設定に関して、林野庁の設定委員会に委員として参画するとともに、全国の設定箇所に対するモニタリング調査の手法検討会への参画を通じ、コリドーのあり方に関して意見提出。

野生生物保護問題/小委員会を設置し、鳥獣保護法及び種の保存法の改正、移入種問題の対応まで視野にいれた野生生物保護法制度の抜本的見直しと、あるべき野生生物保護法制度を提言。鳥獣保護法に関しては、環境省の野生鳥獣保護管理検討委員会に委員として参画し、意見提出。

## 5) 国立公園・保護地域プロジェクト

新生物多様性国家戦略策定への対応/尾瀬保存期成同盟50周年記念シンポジウ

ムの成果を資料集としてとりまとめ(4月)、新国家戦略に自然公園における生物多様性保全の役割の強化を盛り込むようアピール(3月)。

国立公園制度検討小委員会/中央環境審議会の自然公園のあり方検討小委員会や国会における自然公園法改正審議に対し、小委員会の提言を盛り込むようアピール。

自然公園と自然保護が問題となっている長野県・岐阜県中部山岳国立公園乗鞍地区と岩手県早池峰国立公園において、シンポジウム「自然公園地域における保護管理制度を考える」を地元団体と共同で開催(11月~12月、サンワみどり基金助成事業)。

尾瀬問題/日光国立公園尾瀬地区での携帯電話アンテナ設置問題に対して意見書を提出(2月)。

## 6) IUCNプロジェクト(藤原基金活用事業)

IUCN日本委員会/当委員会の事務局として、IUCN日本委員会会合を開催するとともに、IUCNに関する情報を収集し、新設したホームページより発信。

IUCN東アジア保護地域会議/第9回東アジア保護地域会議運営委員会(2001年6月、香港)、第4回東アジア保護地域会議(2002年3月、台北)に出席、東アジアの自然保護地域の連携強化への取り組みを継続。

## (3) 地域NGO等への支援・協力

自然保護に関わる各種の催事等に後援・職員派遣等の協力。<別表1.>

自然保護に関わる研修等へ講師として職員を派遣。

環境影響評価研修(環境研修センター)、野生生物保護研修1及び2(林野庁森林技術総合研修所)、地域における合意形成研修(同左)、森林管理研修(同左)、森林施業・計画等研修(林野庁関東森林管理局)、自然保護研修(水資源開発公団研修所)、河川環境研修(国土交通省国土交通大学校)等にて実施。

## 2.研究事業

### (1) 「植物群落レッドデータ・ブック」の自然保護への活用

#### 1) 「生態学からみた身近な植物群落の保護」の出版

「植物群落レッドデータ・ブック」で明らかにされた日本の植物群落の現状を踏まえ、植物群落保護の考え方と保全事例を提示した書籍を講談社から発行(8月)。

#### 2) 保護上重要な海岸植物群落の調査(河川環境管理財団助成事業)

「植物群落レッドデータ・ブック」をもとに、海岸植物群落のデータ解析を実施。その結果をもとに、海岸植物群落の調査マニュアルの作成とモデル地域での追跡調査・補足調査を準備。

### (2) 「人と自然との豊かな触れ合い」に関する研究

### 1) 環境アセスメントにおける人と自然との豊かな触れ合い

2000年2月に実施した環境影響評価法における「人と自然との豊かな触れ合い」項目の評価方法を検討するワークショップの報告書を作成。環境省・あおぞら財団の「住民参加による環境影響評価手法検討調査」への参加など、人と自然との豊かな触れ合いの観点から環境アセスメントへの市民参加について検討。

### 2) 里やまにおける人と自然との豊かな触れ合い活動調査

2000年度に実施した独自調査・環境省委託調査の結果をもとに、里やまにおける自然とのふれあい活動の現況と、ふれあいの観点からの里やまの保全方策に関する報告書を作成し、新生物多様性国家戦略等に意見書を提出(3月)

### (3)生態系モニタリング手法に関する研究

これまでの原生自然環境保全地域調査ならびに生態系総合モニタリング調査の調査内容(項目・方法など)について比較整理し、今後の生態系モニタリング調査手法のあり方について検討。

### (4) 自然保護セミナーの開催(地球環境基金助成事業)

「自然を守るあの手この手 身近な自然の保護 - 持続的な地域づくりを目指して - 」をテーマに、11/17-18に自然保護セミナーを開催。

### (5) 自然保護ライブラリー(J.INOUYE基金活用事業)

図書資料の受け入れ、整理、データベースの管理・利用の円滑化を継続。

### (6) 研究・活動助成事業への協力 <別表2.>

#### 1) プロ・ナトゥーラ ファンド助成を実施(自然保護助成基金との共同事業)。

「1999年度(第10期)助成成果報告書」を発行。

2000年度(第11期)助成の運営管理及び成果報告会を開催(12/8、東京・こどもの城)。

2001年度(第12期)助成の募集及び審査を行い、22件に助成。 <別表2.>

#### 2) 全労済

環境問題活動研究助成への協力

2001年助成事業へ協力。

## 3.普及事業

### (1) 自然観察指導員養成事業の展開と登録管理

- 1) 自然観察指導員講習会用新テキストの発行 新テキスト「自然かんさつからはじまる自然保護2001」を発行し、今年度のすべての講習会で使用。
- 2) 自然観察指導員養成講師会議の開催 年度初めの5/26と年度末の3/16-17に講師会議を開催し、講習会・研修会プログラムの点検・確認を行うとともに、内容のステップアップを検討。
- 3) 自然観察指導員連絡会等への協力 12/1-2に開催された九州自然協議会への職員派遣をはじめ、各地の指導員グループの行事へ講師派遣・後援等の協力。
- 4) 自然観察指導員の登録 18,000名を超えた自然観察指導員を登録・データ管理し、さらに、2002年度からの会員規程改正に伴い、指導員登録規程等を改定するとともに、登録システムを変更。

#### (2) NACS-J自然観察指導員講習会の開催 <別表.3>

計14回実施し、828名が受講。第1回目からの総受講者数は、計18,107名となった。

#### (3) NACS-J自然観察指導員研修会の開催 <別表.4>

NACS-J自然観察指導員のフォローアップとして計4回開催し、70名が参加。

#### (4) 自然観察会の開催

##### 1) ネイチャア・フィーリング自然観察会

「新宿御苑みどりの日の集い」の一環として、身体の不自由な方とともに行う自然観察会を実施(4/29、東京・新宿御苑)。

##### 2) 全国一斉自然観察会

6月の環境月間を中心に「身近な自然に親しもう」をテーマにした自然観察会の実施を呼びかけ、各地の自然観察グループにより全国69カ所で実施。

#### (5) 「自然しらべ あっ見つけた! 気になる自然」の実施

例年実施してきた「自然しらべ」を「NACS-J 50周年キャンペーン」事業および「身近な自然ガイド作成」事業と関連づけ、特別バージョンとして実施。7月に会員・自然観察指導員及び一般の方々へ参加マニュアルを配布、9月までに750の個人・団体からテーマを題材にした絵や写真等の作品と情報が寄せられ、50周年イベント「シゼンホゴフェス」(12/14-24、東京池袋・アムラックス東京)で展示。

#### (6) 「身近な自然観察ガイド」の作成(寄附金付郵便葉書等寄附金助成事業)

「自然しらべ」プログラムの現時点でのまとめとして、「自然しらべ あっ見つけた! 気になる自然」事業と関連づけ、一般向けの冊子「自然観察ガイド『みじかなしぜんかんさつ』」を作成し、配布(3月、10,000部)。

## (7) 外部事業への協力

1) 環境教育に関わる催事等に後援・職員派遣等の協力。 <別表1.>

2) 環境教育・広報に関わる研修等へ講師として職員を派遣。

横浜市野外活動指導者養成講座(横浜市スポーツ振興事業団)、自然環境科授業(群馬県立尾瀬高校)、ワイルドライフ・プロジェクト会議(日本野生動物医学会)、環境情報研修(環境研修センター)等。

## (8) 「フィールド・ガイド・シリーズ」の編集及び改訂(平凡社との契約事業)

1) 新刊「NO.7雪と氷の自然観察」を発行(2001年12月)。

2) 新刊「海の自然観察」の発行とNO.2「野外における危険な生物」の改訂の準備作業を実施。

## (9) NACS-J刊行物等の頒布

会員サービス業務の一環として、NACS-J刊行物を催事等で直接販売するとともに、カタログによる通信販売(2001年10月より合資会社 狼森(おいのもり)へ業務委託)を実施。

## 4. 『自然保護』発行事業

(1) 『自然保護』の発行(特定用途寄付積立預金活用事業)

特別号(36ページ)を年4回(4,7/8,10,1/2月)、通常号(20ページ)を年6回(5,6,9,11,12,3月)21,000部発行。

[特集タイトル、主な掲載記事]

第455号(4月号) NACS-J50周年特集(1)「生物多様性への道のり」

第456号(5月号) しぜんテイナー・講師に徹底インタビュー/泥んこ坂道をかかけのぼる風の谷の子どもたち

第457号(6月号) インターネットでしぜんホゴなお買い物/ダンゴムシレース 下町っ子の熱き闘い

第458号(7/8月号) NACS-J50周年特集(2)「人と人が出会うところ」

第459号(9月号) NACS-J50周年「沼田眞賞」設立/野生生物小委員会設立

第460号(10月号) NACS-J50周年特集(3)「自然保護の主演は誰だ?」

第461号(11月号) 新しい「生物多様性国家戦略」にあなたも意見を/中嶋朋子さんとなっくんの自然かんさつ

第462号(12月号) 川辺川・アユ調査結果速報/「しぜんホゴフェス」開催します

第463号(1/2月号) NACS-J50周年特集(4)「21世紀の目標「自然保護」を社会のしくみにしよう」

第464号(3月号) 追悼・沼田眞会長/特別企画・政策提言の実績をつくりあげた時代 - 沼田さんと自然保護の20年 -

(2) 『自然保護』合本の作成

資料用として『自然保護』2001.4月～2002.3月号の合本を作成。

### (3) 会報のあり方に関する検討

個人会員の拡大につながる会報のあり方と誌面充実に関して検討。会報発行形態の変更計画を策定し、次年度下半期からの実施に向けて準備。

## 5. 広報事業

### (1) 50周年記念キャンペーン事業の実施

自然保護のイメージアップとNACS-Jの知名度アップを目指し、25社からの企業協賛をもとに、ミュージシャン・カメラマン・歌人等40組の協力者とのコラボレーションにより、2001年7月～2002年1月末にわたって複数の事業を盛り込んだキャンペーンを実施。

1) 自然しらべ「あっ見つけた！気になる自然」事業を広報活動に活用。

2) キャンペーンのマスコットキャラクターの名前を募集。1,200名からの応募のうち「葉ラッパ」に決定し(右を参照)、キャンペーンの広報に活用。

3) 12/14-24に東京池袋・アムラックス東京において、50周年記念イベント「シゼンホゴフェス」を開催。トークショーやコンサート、自然しらべの作品展示、川辺川尺アユの展示等を実施。また、イベント広報のために、告知用ポスターとカードを製作し、ポスターは東武鉄道50駅ほか、都内のレストランやCDショップに掲示、カードは各協賛協力社ほか、レストランや喫茶店、CDショップ等で配布。

### (2) 個人会員拡大のための基盤づくりと活用

1) NACS-Jの印刷物の表現イメージを統一するため、各々が作成する印刷物のデザインのトータルコーディネートを継続。

2) 会報発送用封筒の裏面を利用した「会報プレゼントキャンペーン」を実施(41名から申し込み)。

3) NACS-J活動紹介パネル(6枚組、B全・B2)をイベント等で展示、及び貸し出し(5件から申し出)。

### (3) 入会案内情報の広報

1) 情報のリリース NACS-Jの活動を各種マスメディアにリリースし、入会と寄付の呼びかけを実施。

2) 入会案内パンフレットの活用 入会案内パンフレットを全国各地に約5万部配布。各

種イベントでの配布や問い合わせ者への送付のほか、ネイチャーイン・アウトドアショップなどパンフレット常設コーナーを提供下さるサポート団体を開拓し、定期送付を実施(全国約400カ所、年4回)。

3)外部イベントへの協力を通じた入会告知 アースビジョン組織委員会主催イベント「地球環境映像祭」への資料提供・後援(5月)、モンベル社主催「パネルディスカッション」への出演(10月)、企業人のためのボランティア・アクションプロジェクト主催「Heartful Thanks フリーマーケット」への出展(11月)、東京ボランティア・市民活動センター主催「めっせ・TOKYO ボランティアワールド」への出展(12月)、フクロウ・ミミズクの世界展実行委員会主催「生きたフクロウ・ミミズクの世界展」への出展(1月)、ブティックHiro主催「トークショー」への出演(1月)等を通じ、入会をアピール。

4)その他外部事業への協力を通じた入会告知 朝日新聞社ホームページへの定期的寄稿(ほぼ毎週)、環境gooホームページへの定期的寄稿(毎月)、ラジオ出演(NHK海外放送、4月/bayFM、12月/東京FM、1月)、朝日新聞社広告の制作への協力(8月)、ナチュラルリストジャパンによる食品インターネット通販の告知協力(8月~11月)、「山と溪谷」1月号自然保護特集への情報提供、エフエムとよたへのコンテンツ提供(3月~)等。

#### (4) 電子媒体による情報発信システムの運営(牧田基金活用事業)

1)NACS-Jホームページ NACS-Jの発表資料等を発表と同時に全文掲載するとともに、過去の発表資料も順次掲載(週に約2回情報更新)。

2)電子メール「自然保護ニュース」NACS-Jの活動を中心に、無料配信(月に約2回、登録者約6,000名)。

#### (5) 寄付の拡大

1)寄付パンフレットを改訂し、全国に配布するとともに(約10,000部)、「ウェディングプラン」寄付企画をPR。

2)携帯電話での小額決済システムを利用した寄付システムを導入するとともに、インターネットでの寄付システムを試行。

3)企業・その他の団体のキャンペーンイベントに参加し、寄付協力を求めるアピールを実施。ロペライオ(通年)、ブリヂストンFVS(通年)、富士ゼロックス(5月)、サロン・ド・リベルテ主催セーブネイチャーコンサート(6月)、コンサーベーションアライアンス(8月)、ブックセンター名豊(8月~)、ギタリスト佐藤正美氏コンサート(11月)、共同印刷(12月)、三井住友海上スマイルハートクラブ(3月)等。

#### (6) その他外部事業への協力

「里山から考える21世紀」実行委員会への参画の継続(通年)、安田火災海上保険による学生派遣プログラムの受入れ(通年)、電通ギャラリー主催「アースディ2001」展への出展・出演(4月)、日弁連「環境NGOシンポ」への出席(5月)、国際交流サービス協会による海外からのマスコミ招聘プロジェクトへの取材対応(5月)、オークビレッジ主催「森の惑星プロジェクト」への出展協力(2001年6月～2002年6月)等。

## 6.委託事業

(1) 緑の回廊における野生動植物種相互間の関係の把握手法に関する調査(林野庁委託)

緑の回廊におけるモニタリング調査項目のひとつである野生動植物種相互間の関係把握手法に関して、山地性大型猛禽類の指標行動、野生動物の食料となる主要樹種の種子生産量、小型哺乳類・鳥類による果実利用について調査を実施し、「モニタリング仮マニュアル」を作成。

(2) 生態系等にかかるモニタリング調査手法検討業務(環境省生物多様性センター請負)

第4回及び第5回自然環境保全基礎調査において都道府県委託調査として実施した「生態系総合モニタリング調査」の結果を踏まえ、今後の生態系等に関するモニタリング調査の調査手法及び解析方法等を検討。

(3) 国際生物多様性情報収集業務(環境省請負)

IUCN、ユネスコ、東アジア保護地域会議等において、IUCNに関連する生物多様性情報を収集翻訳し、報告書にまとめるとともに、IUCN日本委員会のホームページを新設し、情報提供を実施。

(4) 和光市緑地・湧水自然環境調査(和光市委託)

埼玉県和光市内に残存する湧水と緑地の自然環境の現況を把握し、市の緑の環境基本計画に基づく緑の保全・創出・育成のため、緑地分布、植生、水文・地形、水生生物の各項目について市民参加で調査を実施。調査結果に基づき、市内の湧き水と緑地マップを作成。

(5) 小笠原村南島自然環境モニタリング調査(東京都委託)

小笠原諸島・南島の自然環境保全と適正な利用を図るため、南島における人為(人の立ち入りと過去のヤギの食圧等)による植生変化、裸地化及び土壌侵食の状況のモニタリング調査を実施。

(6) 新座市妙音沢急傾斜地崩壊対策工事生物調査(埼玉县委託)

1995年に新座市の委託によって調査を実施した妙音沢斜面林のうち、大沢・小沢周辺の植生・水生生物の現況を把握し、急傾斜地崩壊対策工事による影響を最小化しモニタリングするための調査を実施。

(7)「日本の自然保護地域の現状・課題と現在の取り組み状況」の作成及び「日本の自然公園制度資料」の作成・印刷(環境省請負)

IUCN第4回東アジア保護地域会議の国別報告「日本の自然保護地域の現状・課題と現在の取り組み情報」の英訳と英文資料「日本の自然公園制度」を作成。

#### 7.50周年記念事業(事業実施積立預金活用事業)

(1)「NACS-J50年誌(仮称)」の資料編集

上巻・下巻からなる書籍(上巻は絶版となっている「30年誌」の復刻、下巻は1981年度~2001年度の活動記録を集約)と、資料編となる電子媒体(DVD-ROM)の製作にむけて、企画・資料収集・原稿作成を実施。

(2) NACS-J50周年記念シンポジウムの開催

10/18に東京大学弥生講堂において、第1回日本自然保護協会沼田眞賞を授与するとともに、受賞者の小野有五氏(地形学からの北海道の自然保護への貢献)、東北自然保護団体連絡会議(地域ネットワークによる東北地方のブナ林保護への貢献)の記念講演会を開催。

#### 8.基金、助成金、積立預金等による事業(前頁までの各事業を基金・助成金・積立預金別に再整理)

(1)藤原基金事業

研修、国際会議等に活用。

(2)牧田基金事業

電子媒体による情報発信システムの運営等の広報・会員拡大事業に活用。

(3)井上基金(J.INOUYE基金)事業

自然保護ライブラリーの運営、図書資料の収集整理に活用。

(4)NACS-J自然保護寄付事業

特定課題保護事業に活用。

(5)PRO NATURA寄付金事業

プロ・ナトゥーラ ファンド助成事業の運営に活用。

(6)自然保護助成基金助成事業

21世紀プロジェクト沖縄地域の自然保護事業に活用。

諫早湾干拓事業緊急調査プロジェクトに活用。  
熊本県川辺川アユ生育環境調査に活用。

(7)寄付金付郵便葉書等寄付金助成事業

自然観察ガイド「みじかなしぜんかんさつ」の作成に活用。

(8)地球環境基金助成事業

自然保護セミナー「自然を守る、あの手この手 - 身近な自然の保護」の開催に活用。

(9) 河川環境管理財団助成事業ss

保護上重要な海岸植物群落の調査に活用。

(10) サンワみどり基金助成事業

長野県・岐阜県中部山岳国立公園乗鞍地区と岩手県早池峰国立公園でのシンポジウム  
「自然公園地域における保護管理制度を考える」の開催に活用。

(11)WWF・日興グリーンインベスターズ基金助成事業

有明海諫早湾の環境回復にむけての調査研究に活用。

(12) 特定用途寄付積立預金事業

『自然保護』発行事業の一部に活用。

(13) 事業実施積立預金事業

「NACS-J50年誌(仮称)」の資料編集、NACS-J50周年記念シンポジウムの開催に活用。

---

<別表1.> 自然保護に関わる催事等への後援・協力・職員派遣一覧

( )内は主催団体と開催時期

第10回地球環境映像祭(アースビジョン組織委員会、5月-2月)

てんりゅうリバーペースオープン記念イベント(ネイチャーナビゲーターキオラ、5/3-4)

テレビ会議・奥秩父自然生態系の明日を考える(秩父の環境を考える会、林野庁関東森林管理局、5/20)

第18回自然は友だち、わたしの自然観察路コンクール(国立公園協会、6/1-12/31)

シンポジウム・移入種問題とは何か タイワンザルを取り上げて(和歌山移入種問題研究会、6/10)

講演会・沖縄のジュゴンと私たち(ジュゴン保護キャンペーンセンター、6/16,17,19)

中・四国環境教育ミーティング2001(中・四国環境教育ネットワーク、6/22-24)

シンポジウム・瀕死の海からの証言 有明海・諫早湾～不知火海・球磨川(同実行委員会、6/23)

- 清津川ダムを考えるシンポジウム(同実行委員会、7/1)  
長良川河口堰運用6年その現状をたずねるシンポジウム(長良川河口堰建設をやめさせる市民会議、7/7)  
第2回南仏エコミュージアムと自然公園の旅(しろうま自然の会、7/25-8/2)  
第12回全国トンボ市民サミット千葉県市川大会(同ドウ実行委員会、8/4-5)  
有明海漁民ネットワーク結成大会(諫早干潟緊急救済東京事務所、8/19)  
コウモリフェスタ2001in郡上八幡(コウモリの会、8/25-26)  
設立30周年記念事業・日本自然保護会議(立山連峰の自然を守る会、9/8-9)  
諫干縮小案を批判し対案を語る研究者・漁民緊急集会(有明海漁民・市民ネットワーク、9/9)  
国際湿地シンポジウム2001in三番瀬(日本湿地ネットワーク、9/15-16)  
シンポジウム・命あふれる博多湾をめざして 国設鳥獣保護区を考える(和白干潟を守る会、9/30)  
演劇公演・虹の立つ海(NPOパラギ「海と自然の教室」、10/2)  
シンポジウム・野生生物保護法制定をめざして(同全国ネットワーク、10/13)  
第14回日本の森と自然を守る全国集会in北海道(同実行委員会、10/13-15)
- 三番瀬まつり市川2001(三番瀬フォーラム、10/14)  
展覧会・わくわくドキドキ干潟百科展(とくしま自然観察の会、10/19-21)  
シンポジウム・野生と技術のコミュニケーション～環境科学とIT～(地球環境財団、10/20)  
第17回水郷水都全国会議・紀の国大会(同実行委員会、10/26-28)  
河川における総合学習セミナー(メタセコイアの森の仲間たち、11/2-4)  
第3回千葉県自然観察指導員研修会(千葉県、千葉県自然観察指導員協議会、11/3-4)  
国定公園としての丹沢のあり方を考えるシンポジウム(丹沢ブナ党、11/11)
- 第16回ニッセイ財団助成研究ワークショップ 里山の自然をまもり育てる(日本生命財団、11/19)  
2002年日本水大賞(日本水大賞顕彰制度委員会)  
せたがやトラストウィーク2001(せたがやトラスト協会、11/13-18)  
フォーラム・干潟の大切さを考える(21世紀の水産を考える会、11/23)  
第4回有明海・不知火海フォーラム(同ドウ実行委員会、11/24-25)  
濃尾淡水魚ネットワーク第1回勉強会(濃尾淡水魚ネットワーク、11/24)  
第1回琉球列島環境保全シンポジウム・やんばるの自然と地域の振興(WWFジャパン、12/16)  
公開シンポジウム・新しい環境アセスメントは定着したか(環境省、地球・人間環境フォーラム、1/11)  
シンポジウム・渚のエコツーリズムと地域振興(南伊豆海洋生物研究会、1/12-13)  
講演会・環境保護と地域振興(ジュゴン保護キャンペーンセンター、1/20)  
東海の自然保護を考える研修会・第3回(同事務局、1/26-27)  
尾張自然観察会20周年祭(同観察会、2/10)  
干潟を守る日2002 全国キャンペーン(同実行委員会)  
2001国際湿地シンポジウムin東京三番瀬(日本湿地ネットワーク、2/24)

第7回神奈川オオタカ保護シンポジウム(神奈川オオタカ保護連絡会、2/24)

第20回日本環境会議・アジア国際環境会議(同会議、3/29-31)

三番瀬海辺のつどいパート3(同ドウ実行委員会、3/31)

計 / 45件

<別表2.> プロ・ナトゥーラ ファンド助成事業2001年度(第12期)  
調査研究・活動助成先一覧

No.	研究テーマ	グループ・機関名	代表者 ( ) : 所属機関 [ ] : 推薦者	助成額 (千円)
・国内調査研究				
1	在来マルハナバチ類ルイ保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発	セイヨウオオマルハナバチ野生化問題研究グループ	横山 潤 (東北大学大学院)	1,000
2	イリオモテヤマネコの生息地としての西表島山地部の評価調査	イリオモテヤマネコ研究グループ	伊澤 雅子(琉球大学)	1,020
3	沖縄島北東岸のサンゴ礁性貝類相の現状調査	ウルマ貝類調査グループ	黒住 耐二 (千葉県立中央博物館)	880
4	三峰川水系における帰化植物の生物学的侵入が生態系へ及ぼす影響	信大自然史研究会	大窪 久美子 (信州大学農学部)	800
5	全国での堅果類の豊凶測定によるツキノワグマの出没予報システム構築の研究	日本ニホンツキノワグマ研究所	米田 一彦 (日本ツキノワグマ研究所)	600
6	川辺川流域三世代自然ふれあい緊急調査	川辺川流域自然ふれあい調査研究会	簗茂 寿太郎 (東京農業大学)	700
7	外来種カミツキガメの野生化とその対策に関する研究	外来亀対策委員会	小林 頼太 (東大農学生命科学研究科)	940

8	世界遺産春日山原始林と天然記念物ニホンジカの保全ホゼン生態学的研究	春日山原始林研究グループ	前迫 ゆり (奈良佐保短期大学)	730
9	生態的プロセスに着目して地域の生物多様性保全を考慮する森林管理 - スギ人工林における生物間相互作用の復元 -	人工林生態系研究グループ	紙谷 智彦 (新潟大学農学部)	1,000
・国内活動				
10	馬毛島の自然と歴史：市民調査の成果を生かした報告書とガイドブックの作成・活用	馬毛島の自然を守る会	長野 広美	1,000
11	佐渡島における陸封型(河川型)ヤマメ <i>Oncorhynchus masou masou</i> の増殖保護と遺伝子解析調査	NPO・特定非営利活動法人 溪流再生フォーラム	飯塚 友章	840
12	藤岡のヤリタナゴ・マツカサガイの保護のためフォーラム開催とその成果の出版	ヤリタナゴ調査会	斉藤 裕也	800
13	活動する市民によるワークショップと緊急レポート「市民参加と環境教育によるワイルドライフ・リハビリテーション&レストレーション」	ふくしまワイルドライフ市民フォーラム	溝口 俊夫	800
14	小出川の環境保全と子供達への自然環境教育活動	小出に親しむ会	丹沢 久子	500
15	第14回日本の森と自然を守る全国集会in北海道の開催	第14回日本の森と自然を守る全国集会in北海道実行委員会	寺島 一男	1,000
16	箕面北部開発地の市民参加環境調査と自然保護、地域づくり	箕面市北部の自然と開発を考える府民の会自然保護部会	本多 孝	400
17	小笠原諸島におけるエコツーリズムの確立	小笠原ネイチャーフォーラム	有川 美紀子	400
・海外調査研究				

18	東アジア遺存植物宝庫としての天目山(中国)における貴重な植物群落の保護生態学的研究	華東師範大学環境科学学部	達 良俊 (Da, Liangjun) [尾崎煙雄・千葉県立中央博物館]	1,700
19	海南島(中国)における稀少動物の分布とその歴史の変遷に関する研究	中国海南師範学院野生動物保護管理研究センター	李 玉春 (Li, Yuchun) [小金澤正昭・宇都宮大学農学部附属演習林]	980
20	石門台省立自然保護区におけるチョウ類の生物多様性と保全に関する研究(中国)	華南農業大学昆虫生態学教室	王 敏 (Wang Min) [矢田脩・九州大学大学院比較社会文化研究院]	1,400
21	スマトラ西部州(インドネシア)におけるアゲハチョウ類の生活史と生態	アンダラス(Andalas)大学理学部	ダヘルミ (Mr. Dahelmi) [中村浩二・金沢大学カ理学部生態学研究室]	950
22	インドネシア産哺乳類・鳥類のDNAバンク設立のための継続的努力	インドネシア科学院生物学研究センター動物学部門	スリ・スランダリ (Dr.S Sulandari) [東正剛・北大大学院地球環境科学研究科]	1,840
助成金総額				20,280

## &lt;別表3.&gt; 自然観察指導員講習会開催地一覧

No.	開催日	開催地	会場	共催団体	参加者数
296	5/18-20	東京都	八王子大学セミナーハウス	NACS-J主催	51
297	6/15-17	秋田県	田沢湖スポーツセンター	秋田県	61
298	8/3-5	新潟県	ホテル大自然館(入広瀬)	新潟県	62
299	8/17-19	京都府	南山城少年自然の家	京都府	62
301	9/7-9	愛知県	愛知県民の森	愛知県	64
302	9/14-16	北海道	すすらん丘陵公園青少年山の家	北海道自然保護協会	63

303	9/28-30	神奈川県	富士ゼロックス(株)塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	62
304	10/6-8	奈良県	青年の家(吉野)	自然観察指導員奈良連絡会	59
305	10/19-21	三重県	鈴鹿青少年センター	三重県	59
306	7/20-22	大分県	あ祖母学舎(竹田)	NACS-J主催 協力:九州自然協議会	49
307	11/9-11	埼玉県	勤労青少年フレンドシップ・ハイッ	埼玉県	61
308	11/23-25	大阪府	教学の森野外活動センター(箕面)	自然保護教育活動研究会	63
309	11/30-12/2	千葉県	国民宿舎鹿野山センター	NACS-J主催	53
310	3/1-3	宮崎県	綾町ふれあい合宿センター	綾町・宮崎県自然観察指導員協議会	59

## &lt;別表4.&gt; 自然観察指導員研修会開催地一覧

開催日	開催地	研修会名	会場	共催団体	参加数
7/20-21	東京都	ネイチュア・フィーリング	オリンピック記念青少年センター	NACS-J主催	18
9/15-16	佐賀県	環境指標生物	ユートピア佐賀	佐賀県	17
1/12-13	大阪府	自然観察はじめの一步	教学の森青少年野外活動センター	みのお山自然の会 他	25
3/23-24	神奈川県	リスクマネージメント・救急救護	関東学院大学葉山セミナーハウス	NACS-J主催	10

